

## 郡山市・「オランダを知ろう！」講演会

ホストタウン  
交流の取り組み▲駐日オランダ大使館マスコット  
『レンジくん』『ランダちゃん』

7月11日、郡山市では「オランダを知ろう！～スポーツ編～」を開催しました。市国際交流員のヨーストさんを講師に、オランダは平坦な地形が多いことから自転車が盛んであることや、冬は凍った川でのスケートが人気であることなどを現地の映像を交えて紹介し、オランダへの理解を深めました。

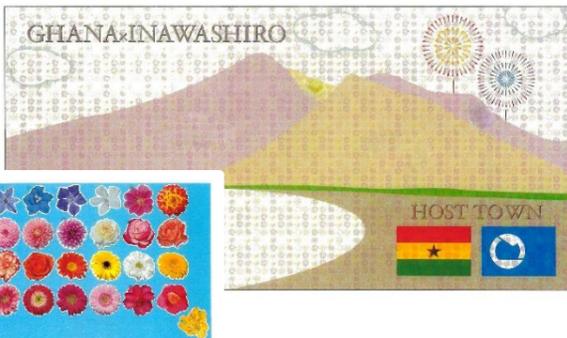


## 南相馬市・おもてなし方策検討

南相馬市の原町第二中学校では、1年生の総合的な学習の一環として復興ありがとうホストタウンに理解を深める授業を行っています。市がジブチ、台湾、米国、韓国の復興ありがとうホストタウンであることから、授業では相手国の選手らにどのようなおもてなしができるか、生徒たちがアイデアを出し合いながら検討を進めています。

## 猪苗代町・花アートプロジェクト

猪苗代町では、ガーナとの友好の形として、聖火リレーが通過することをきっかけに町出身の写真家野口勝宏さんが撮影した「福島の花」を使い、大型の花アート作品制作に取り組むことが発表されました。花アートは、町を象徴する風景をデザインした縦2メートル横4メートルの大型台紙に「福島の花」をプリントしたシールを貼り完成させます。今後、町内の小中高等学校、支援学校などを巡り、児童生徒に協力を呼びかけます。



## ホストタウン情報サイトが開設

内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局は、ホストタウン事業に登録する全国の市町村情報を発信するウェブサイトを開設しました。福島県内のホストタウン情報も紹介されています。

また、国内外の選手らが東京2020大会やホストタウンに寄せたメッセージ動画も公開されており、本県出身の車いすラグビー日本代表強化指定選手の橋本勝也さん（田村高3年）からの動画も掲載されています。



## 「ふくしまプラス2020」

福島県では、東京2020大会に向けた情報を発信するポータルサイト『ふくしまプラス2020』を開設していますので、ぜひご覧ください！

また、皆様の東京2020大会に向けた取り組みの中で、当サイトへ掲載を希望するイベント等がありましたら、随時、情報提供をお願いします。



【発行日】令和2年8月28日  
 【発行者】東京2020オリンピック・パラリンピック復興ふくしま推進会議事務局  
 （県オリンピック・パラリンピック推進室内）  
 【お問い合わせ】  
 E-mail: fuku2020@pref.fukushima.lg.jp  
 ☎024-521-7312

## The Fukushima 2020 Information

ふくしまの未来に向けたみんなのアクション VOL.9

野球・ソフトボール競技  
新競技日程が決定

2021年

7月21日(水)・22日(木)



2021年

7月28日(水)

7月17日、大会組織委員会は延期となった東京2020大会の競技日程を発表しました。福島あづま球場ではソフトボールが2021年7月21日（水）・22日（木）の2日間で6試合、野球が7月28日（水）に1試合開催されます。

みんな  
知ってた!?新生・あづま球場の  
ヒミツ!!

福島あづま球場は、昨年9月に改修工事が完了（エレベーターは今年3月に完了）し、オリンピック仕様に生まれ変わりました。今回は、新生・あづま球場の特徴をご紹介します。

## 【施設概要】

両翼：100m センターライン：122m  
 スタンド収容人員：30,000人  
 附属施設：審判員休憩室、選手控室、身体障がい者用観覧室、車いす用昇降設備、医務室、審判員室、放送室、本部役員室、記者室、中継放送ブース  
 所在地：福島市佐原字神事場1番地（あづま総合運動公園内）

詳しくは裏面  
をチェック

# 1 グラウンドの人工芝化



あづま球場の内野は黒土、外野は天然芝で覆われていましたが、雨が降ってもすぐ乾いて試合ができるよう、グラウンド全面を人工芝に改修しました。プロ野球チームのホームスタジアムでも使用されている人工芝で、天然芝のグラウンドに比べ排水性、クッション性が向上し、金属スパイクを履いての利用も可能です。また、屋内練習場やブルペンも併せて人工芝になりました。



▲グラウンド断面図

# 2 車いす用観覧席の増設



車いす用観覧席を16席増設し、30席となりました。また、スタンドまでの車いす用昇降機も増設しました。

# 3 エレベーターを新設



球場の正面入り口脇に11人乗り1基を新設。2階のコンコース、バックネット裏の内野スタンドにつながる3階スタンドまで乗降できます。

# 4 外野席の改修



外野席は観戦しやすいように人工芝が敷かれ、階段状になりました。

# 5 屋内設備もリニューアル



選手ロッカーやシャワー室の改修を行いました。また、様々な国からの観覧者が使いやすいよう球場内全てのトイレを洋式化しました。

# PICK UP TOPICS

## 競技開催 「1年前」五輪に向けて！



メッセージ動画は  
コチラ↓



来年に延期された東京2020大会の開会1年前となる7月23日、県では、オリンピックや東京五輪代表内定選手など、本県ゆかりの方々から県民に向けたメッセージ動画を県のオリパラ情報サイト「ふくしまプラス2020」で公開しました。バドミントンの桃田賢斗選手や自転車競技日本代表の新田祐大選手ら11人からメッセージが寄せられました。動画は上記QRコードからご覧いただけます。

また、県庁西庁舎2階には新たにオリパラコーナーを設けました。フォトパネルやオリンピックにまつわる展示のほか、オリンピックとパラリンピックの開会までの残り日数を表示する「カウントダウンボード」を点灯しました。カウントダウンボードは県内7つの駅にも設置されており、こちらも同日再点灯しました。



さらに東北電力と東北電力ネットワークの協力の下、県内4カ所の鉄塔など（福島市、会津若松市、いわき市、南相馬市）でオリンピック・パラリンピックカラーのライトアップがスタートしました。8月8日まではオリンピックシンボルカラーの5色、8月24日から9月5日まではパラリンピックシンボルカラーの3色のライトアップが行われる予定です。

## 競技開催 福島明成高校生徒が五輪花壇を植え替え

7月20日、福島明成高校の生徒は、あづま総合運動公園で五輪花壇の植え替え作業を行いました。花壇は、5月15日に総合体育館前に設置され、約1カ月おきに植え替えが行われています。

今回は生物生産科施設園芸コースの3年生17人が参加し、校内で栽培した「カリブラコア（赤・青・黄・白）」と「バジル（緑・黒）」で五輪シンボルマークを表現しました。今後、8月下旬に植え替えを行い、9月まで展示する予定です。



## 福島県 レガシー補助金 1次募集は9/30締め切り

「福島県レガシー創出大交流ステップアップ補助金」は、東京2020大会に向けた機運醸成や東日本大震災からの復興の発信、さらには東京大会終了後（2021年以降）のレガシーに繋がる風評払拭、人材育成、交流人口の増加等、地域活性化の契機となる県内各地の取り組みに対して補助率9/10以内（上限500千円）で補助を行うものです。

令和2年度の1次募集締め切りは、9月30日必着です。補助対象事業や対象経費など詳しくは、県公式ウェブサイトをご覧ください。

